

事務局長
岡本 一
神奈川労連特別幹事



この勝利に確信をもって明日に

争議を支援していただいた全国の皆さん、本当にありがとうございました。おかげさまで日本を代表する大企業・東芝を相手に、差別争議を全面解決することが出来ました。

大企業の差別争議の場合は共通していると思いますが、東芝争議も最大のポイントは、会社の不当労働行為を認めさせ、申立外も含めて償わせる事にありました。

この点では、申立人を中心に明るくする会が力をあわせ、秘密文書などの動かぬ証拠と、各人の証言などをもとに弁護士と申立人の奮闘により、労働委員会で明確に断罪させた事が大きかったと思います。

しかし、会社は自主交渉に入っても、(追加提訴で棄却された)2名を除く申立人は是正するがそれ以外は応じない、2名も含め申立人だけは解決交渉にのせる等の主張していた会社が、ついに申立外も含めた解決を決断したのは、全国の皆さんの支援の賜物です。

神奈川では日立争議が終盤をむかえた2000年頃から大企業争議の中に、全労連を軽視し誹謗する流れが発生し、この流れが東芝争議にも広がり、支援共闘の位置づけや申立外の扱いなどをめぐり重大な分裂が持ち込まれました。

明るくする会は、この流れを克服する為に、03年3月から次々と9名の追加申立を行いました。警察官まで使った東芝の異常な職場支配を打破する為にも、不正な流れを克服する為にも、神奈川労連が支援共闘をつくるイニシアチブをとろうと意志統一し、東芝の主要事業所のある全国および県内の地方労連、地域労連、県内主要産別などの参加を得て、05年6月に支援共闘会議を立ち上げました。

立ち上げてからは、労働委員会の傍聴、要請行動、定例宣伝、全国行動、争議総行動での門前宣伝・要請などをくり返し、終盤では東京都の三多摩地域での取り組みも強まり、ついに頑迷な会社に申立外も含めた全面解決を決断させたのです。

様々な政治的日程などもあり、東芝争議独自としての大規模な行動が組めず、批判もありました。しかしこれでもかこれでもかというほど多彩な行動に取り組み、ホームページなども次々と更新され、現在では81万を超えています。

不十分さもあり、あの時もっとこうしていればなどの思いも残しているかもしれませんが、その思いはこれからのたたかいに活かし、職場の中にまともな労働運動の流れを大きくしていくと確信しています。

分裂していった人たちが最近総括集(報告集)をつくり、記念レセプションを開きました。しかし、どちらの言い分が正しいかは、争議解決の協定書とそれを報じた新聞記事を見れば明白です。

自信を持って職場でのたたかい、神奈川での労働運動をすすめていく決意です。

本当にご支援ありがとうございました。